

東大生が最も多く読んでいる雑誌は少年向け漫画週刊誌

数年前、東大新聞が、東大生の愛読する書籍や雑誌について調査、発表したことがあります。驚いたことには、最も多く読まれている雑誌が、少年マガジン、少年サンデーという、小中学生対象の漫画週刊誌だったことです。

今の大学生は、ヘルメットをかぶって棒を振り回すか、密室に閉じこもって爆弾作りに夢中になる者と、漫画を読み、マージャンを楽しむ者の二種類がある、と言われていています。それだったら、漫画を読む大学生が最高ということになりますが、これはどう考えてもおかしいことではありませんか。

「大学生は漫画を読むべきではない」など言うのではありません。度が過ぎているのが問題だと思うのです。通学の電車の中で、前に老人が立っているのにも気が付かないほど漫画に熱中するのは、どう考えても大学生の常態であってはならないと思うのです。

「学んで思わざれば暗し」とは至言だと思いますが、通学の途上でくらい、漫画を読むのをやめて、大学生らしい思索にでも耽ってほしいと、

漫画に夢中になっている大学生を見るたびにいつも私は思います。しかしながら、何も「学んで」いないから、思索する種がないのかも知れません。

今の大学は、エリートの学問する場所ではなくて、大衆が青春を楽しむ場所が変わっているのだから仕方がない、と言う人もいます。確かに、そう言えば言えないこともないようです。しかし、私には、そのように割り切って、座視することはできません。

元来、学問はおもしろいものなのです。真理の探究ほど楽しいものはないと思います。同じ読書でも、奥行の深い学術的な専門書の方が、読書力さえあるならば、味わいが深く、読めば読むほど楽しさが増すものだと思います。

「学んで時にこれを習う。また悦ばしからずや」の言葉通りだと思います。